

基地対策特別委員会

10月30日～31日

◎高橋 征夫 ○小山 典男 尾作 武夫
小野 芳久 大坪 国広 小川 龍美
齋藤 成宏
◎…委員長 ○…副委員長

■ 岩国基地を視察

山口県岩国市

岩国市は、地理的特性により、市単独で広大な基地を抱えている。重大事故の未然防止や騒音削減の施策として、滑走路を約1km沖合に移設し、日常生活上の障害などの軽減を図った。

米軍人や家族、一般市民有志により結成された「日米協会」では、英会話講座や日本語講座を開講するなど、互いに言語活動を通して異文化を相互理解することに力点をおき実施されていた。

わが町も、独自の地の利を生かし、今以上の事業展開も必要ではと考える。



担当者から説明を受けている様子



岩国基地（在日米軍、海上自衛隊が共用）

■ 「メタボリックシンドロームの概念を導入した健診、保健指導」について

兵庫県尼崎市

尼崎市では、保健師をリーダーに、職員の健康管理戦略を実行した。その内容は①医療情報を基にレセプトを分析②脳・心疾患予防（メタボリックシンドロームの改善）に焦点を当てる③緊急度に応じた保健指導や健康教育を実施。

その結果、死亡者・休職者、医療費が減少。この成果をヘルスアップ戦略事業と銘打ち、町づくりの中核に据え、市民全体へと広がっていた。



取り組みについて熱心に語る保健師

■ 「川西市子どものオンブズパーソン制度」について

兵庫県川西市



オンブズパーソンの説明を受ける様子

川西市では、子どものSOSを受け止め、いじめや体罰、不登校、虐待などの人権侵害から子どもを救済するため、公的第三者機関「オンブズパーソン制度」を導入していた。3人のオンブズパーソン（大学名誉教授・弁護士など）と相談員・調査員で、相談・調査・調整活動などを行う。条例を制定したこと、市長部局においたことでより大きな効果を上げていた。

■ 「ハートフルチャレンジおの検定」について

兵庫県小野市

小野市では、東北大学川島隆太教授を小野市教育行政顧問として招き、脳科学の知見を活かした教育に取り組んでいた。基礎学力を定着させ、豊かな心を育む学習システムや基礎体力を向上させる「おの検定（漢字・計算・体力）」を実施。受験者は市民に広がり5万人を超えた。また、マイナス1歳（妊娠中）から始まる「おの16か年教育」にも取り組んでいた。



「おの検定」の各種資料

委員会活動報告

総務産業建設委員会

魅力ある直売所に向けて

農畜産物直売所役員と懇談会

総務産業建設委員会では、12月18日、農畜産物直売所役員の皆さんと懇談会を行い、直売所の現状と課題について話を伺いました。

懇談会では、「直売所の会員は増えているが、生産物の販売ペースが足りない」「瑞穂の農業は、多品種少量の生産が多いので直売所での販売が一番適している」「売上げが減っているが、どうしたらいいか」などの直売所の現状と課題が語られました。

その他、放射能の検査をどう行っているか、学校給食への地産地消の取組み、商業との連携をどうするかなど様々な話題も出されました。

「直売所の問題は、農業だけの問題ではなく、町民全体の問題であり、まちの活性化にも繋がります」として、魅力ある直売所に向け、どうすべきか、活発な意見交換がなされました。



懇談会の様子（西多摩農協瑞穂支店会議室）